

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 140 『行雲流水』 こううん りゅうすい

< 意味 > 空行く雲や流れる水のように、深く物事に執着しないで自然の成り行きに任せて行動するたとえ。また、一定の形を持たず、自然に移り変わってよどみがないことのとえ。諸国を修行してまわる禅僧のたとえにも用いられることがある。「流水行雲（りゅうすいこううん）」ともいう。

< 出典 > 蘇軾「謝民師推官に与うるの書」

「・・・所示書教及詩賦雜文、觀之熟矣。大略如行雲流水初無定質、但常行於所當行、常止於不可不止。文理自然、恣態橫生。孔子曰、言之不文、行之不遠。又曰、辭達而已矣。・・・」

読み下し： 示す所の書教及び詩賦雜文、之を觀るに熟せり。大略行雲流水の如く、初め定質無し、但だ常に當に行くべき所に行き、常に止まざるべからざるに止まる。文理自然、恣態橫生す。孔子曰く、之を言ひて文ならざれば、之を行はること遠からず、と。又曰く、辭は達するのみ、と。

通 釈： 『私に示された、文書や詩賦雜文は、読んでみると成熟したものです。 ほぼ行く雲や流れる水のように、もともとは定まった形がなく、いつも行くべき所へ行き、止まらねばならぬ所で止まるように、文脈も自然であり、姿も自由です。孔子は「言葉に文采がなければ、それは広汎に伝わらない。」と言い、「言葉は考えを伝えられさえすれば良い」と言いました。』

表 現： 行雲流水、人生は旅なり。

語 釈： 「行雲」は空行く雲。「流水」は流れる水。

一 言： 私はしばらく前から坐禅に取り組んでいますが、姿勢や身体の痛みに気を取られ、なかなか雑念が去りません。<意味>に書かれたような心境に早く至りたいと願っています。

参考文献： 新釈漢文大系「唐想八大家文読本」六 岩波書店「四字熟語辞典」